

II 調査報告

1 視点

平成 22 年 2 月 10 日に東京都、川崎市、横浜市が共同で発表した「京浜港共同ビジョン」では、京浜港（東京港、川崎港、横浜港）は、首都圏の産業と生活を支えるメインポートの地位を確保しながら、国内貨物を集中的に扱う国内ハブ港の機能、ゆくゆくは東アジア地域の国際的な貨物の積み替えを担う国際ハブ港を目指すこととしている。

シドニー港は、国や地域の輸出入・移出入を引き受ける「メインポート」の性格を、シンガポール港は、貨物の積み替え基地である「ハブポート」の性格をそれぞれ持っている。

視察では、それぞれの違いを捉え、港湾施策や物流機能向上策について調査し、首都圏の海の玄関口として重要な役割を担う東京港を含む京浜三港の今後の発展に資する施策を探ってきた。



シドニー湾沿岸機構